

わがチラ裏ブログより転載

<http://www.ma-21.com/blog1/>

ふちんかん

伊勢・鳥羽 20120805

職員旅行で伊勢・鳥羽へ。

初日はお伊勢さん参り。ウケ狙いで金比羅さんの笠と富士山の金剛杖を持って行ってみる。貸し切りバスならではの無駄荷物だ。

初めて伊勢神宮に行ったのは小学校の修学旅行だった。ここでエライ目にあつた話。人の話を聞かない児童だった私は、お土産として一括注文する赤福の代金を持ってきていなかった。

そこでお伊勢さんに着いたら速攻で土産の餅を買ったわけだが、これが赤福に似ているが異なる岩戸餅である。イケてない。

そしてそれを持ちバスに乗ったわけだが、その後、隣の席の女の子が車内で見事に口花火を炸裂、吐瀉物にまみれたお餅を持ち帰ることになった。

……苦い思い出である。

さて、そんな思い出を秘め、車内で差し入れのビールを6缶あける。

あっという間に伊勢神宮に到着。運転してもらうってのもいいもんだね。

真夏の炎天下、血中アルコール濃度かなり高めで、御神域をへんてこな格好で歩く。



その後、本物の赤福を食べ、さらに餡を凍らせたという「おふくアイスマック」なるものを食べる。

宿泊は鳥羽シーサイドホテルである。海側の眺めの良い部屋。



鳥羽は6年前に青春18切符を使って訪れたことがある。そのときは、JR鳥羽駅から歩いて、赤福のお店に立ち寄り、ミキモト真珠島や鳥羽水族館を横目で眺めながら、鳥羽港から伊良湖崎へフェリーに乗ったのだった。そのときのフェリーから眺めたであろう温泉旅館に泊まったわけだ。

翌日は鳥羽水族館へ。小学校の修学旅行以来か。数日前に清水の東海大学海洋科学博物館にいったばかりだが水族館は飽きない。そしてさすが老舗の博物館。見せ方が上手である。



なんか情けないフェイスマークみたいだが、カブトガニが砂の中に潜っている様子である。



←
クリオネとピラニア、どちらも肉食生物。

その後、海女小屋での漁師料理を堪能し、石神神社を参詣、お土産に赤福を買って帰路につく。

以前はお土産の赤福なんて硬くて大して旨いとも思わなかったが、柔らかくておいしかった。賞味期限も2日だったし、偽装事件以降真っ当にやっているのだろう。名物に旨いものなしというが、赤福は安いし良いと思うな。



秘境駅への旅 20120810

夏休み前に青春18きっぷ赤券を旅オタ先輩の桜石から買っていた。
5枚すべて使う予定はないのだが、家族で出かけるなら一気に消費するし、余ればチケット屋で売ればよい。
さてようやく使う日がやってきた。前日に子どもたちを日帰り旅行を誘うが断られてしまう……。まあ久々の一人旅、これはこれで良し。

4時起床、車で最寄りの川西池田駅に行き、定額駐車場に入れる。時刻表がなかったので行き当たりばったりだったが、大阪方面行き始発の10分前についた。

4:59 川西池田発

尼崎駅なら構内で時刻表を売っているコンビニか本屋があると思ったが、開いていなかった。とりあえず姫路方面に先行しそうな普通列車・加古川行きに乗る。横座りの列車で加古川まで。6:48 加古川着、ようやく改札外のコンビニでいつもの小型時刻表を購入できた。ついでに朝飯・お茶なども購入。しかし 6:58 発播州赤穂行きは座ることもできず。立ちながら時刻表操作。姫路からは姫新線や播但線方面へ行くこともできたが、先の接続が悪く、そのまま西をめざすことにする。

7:32 姫路発(新見行き)

座席は確保できたが乗車率 100%超え、上郡あたりまで混んでいたので食事せず。この列車は岡山倉敷を通して新見まで行くロングラン列車だ。このまま新見に行って木次線乗車のプランニングも考えたが、日帰りが難しそうだったので、このプランはお蔵入りとなった。で、本日の行き先は四国とし、目的を秘境駅・坪尻駅の探訪と徳島線に乗ることとした。

進路も決定し、その後食事。ひと心地ついたら少し寝てしまった。

9:32 岡山発

岡山からは快速・マリンライナー。これで四国に渡り坂出で折り返すように琴平行きに乗るつもりだったが、車内案内で各停・琴平行きがあることを知る。私が岡山に着く1分前に出ていた列車なのだが、マリンライナーが途中で追い抜くためだ。こちらに乗り換えた方が琴平に一本早くつくことが解ったため、マリンライナーを児島で降り、琴平行き各停に乗り換える。しかし、こんな乗り継ぎにも気づかないとは……長いこと時刻表を練っていないと呆けてしまったようだ。鉄道マニアとしては恥ずかしいことだ。

10:00 児島発

姫路から乗った列車と同じ黄色一色に塗られた113系電車。車内はガラガラ。琴平までのんびりできた。





琴平では以前 WOO の取材で行ったことのある温泉旅館のウラの製麺所を探すが、場所が変わったのか記憶違いか迷走してしまった。

やっとたどり着いた店は確かに見覚えがある。システムも同じ。

醤油うどんはぬるくて正直大してウマくなかった。

ただ安いのはさすが。2玉入った「大」が180円、

これにおかずを2品つけて380円。



11:52 琴平発

歴史を感じさせる琴平駅を出発し、秘境駅坪尻目指す。ワンマンカー。



12:33 坪尻着。

山間の谷底にあるスイッチバックの駅である。秘境駅として知られていて周囲に人家はない。GoogleMapを見ると、両側とも山を越えたところに集落はあるようで、昔はそこそ利用者もいたらしい。今では継続的に利用されている方はお一人だという。

川側の廃屋を越えたところまで散歩してみる。眼下に川が見え、せせらぎが

聞こえる。また山の上方に国道が通っているので、トラックの走行音が聞こえる。あとは虫の声だけである。



何列車か通過していく様子を撮影した。駅に入る列車以外は本線を高速で通過していく。踏切も警報機もないので、いきなり列車がトンネルから現れたと思うと爆音を残して瞬く間に見えなくなってしまう。



屋外は暑い、屋内は快適だが虫多し。子どもたちを連れてきていたら困ったことになっていただろう……。

意外にも携帯の電波がつかめたので、用もないのに家に電話してみる。そして時間つぶしにこの原稿を書いている。昔では考えられないことだ。昔はローカル線の撮影地で列車を待っている間とか、駅で寝るために終列車が通過するまでの間とか、ものすごい時間があったのだが、どのように時間を過ごしていたのだったか、本や時刻表を読んでいたのだったか…。そういう時間を過ごした経験を懐かしく思う。今は効率的であるが、是非は決めかねる。

2 時間あまりを秘境駅で過ごした。

14:53 坪尻発。

坪尻からは下り。そして箸蔵からは吉野川を渡るために山の斜面を一気に下る。川を渡るために直角に曲がり、長い鉄橋で吉野川を最短距離で渡り、下った向きとは逆向きになるよう（全体としてはU字を描くように）また直角に曲がる。

そして佃駅である。ここは高校生の頃、鉄橋を渡る列車の撮影のために降りたことがある。

私が高校時代につくった鉄道模型のモジュールで一番の思い出のある作品は、ここ吉野川に架かる鉄橋をモチーフにしたものだ。

15:04 佃発

0分乗り換えで徳島線の列車に乗る。発車直後におばちゃんがホームに荷物を忘れたとので停車、ローカル線ならではだ。

ずっと左手側に吉野川が見え隠れする。しかし暑さに疲れたのかウトウトする。穴吹で対向待ちの間にお茶を買い一息。

17:00 徳島

徳島からはショートカットのため高速バスを利用する。以前に本州側の舞子駅を訪れた時から使ってみようと思っていたルートだ。発車までの間に徳島線の車窓から見えていた川田屋まんじゅうを買ってみる。こんな機会がなければ一生買わないだろう田舎饅頭だが、両親の田舎・卯之町の名物である山田屋饅頭に語感と形が似ているので買ってみた。

高速バスは鳴門まで地道を走り、そこから淡路・鳴門自動車道へ。



18:30 高速舞子下車

明石海峡を渡ると半日前に通った明石神戸が見えてくる。陸地全体が建物に覆われている。水際まで建物が迫っている感じで急にコンクリート社会に舞い戻る実感がわく。下車後、エレベーターで下りたら小洒落たショッピングモールにファストフード、空気も滞留しているようで、もう都会の空気だ。

18:34 舞子発

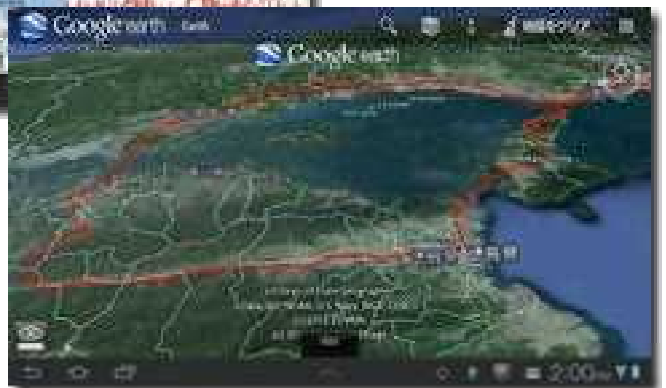
ホームに降りるやいなやすぐに快速列車が来る。乗った快速列車の横を新快速列車が抜き去っていく。実にアーバンだ。

19:28 尼崎発

朝加古川行きに乗ったホームと同じホームで帰路につく。

19:40 川西池田着

早朝から15時間の旅の終了。今回もGPSロガーにて旅程を記録してみた。なんか小豆島を遠巻きに一周したみたいな行程だな。



その他、今回は夏休みがあったのでけっこう出かけました……残りはタイトルと一部のみ紹介します。富士登山はマニアに載せる予定です。

✿ ひたすら列車に乗るだけの旅 1日目 20120815

青春 18 切符を使った 2 日間の旅。

今回はひたすら列車に乗る修行のような旅を企画してみた。

……中略……

一日目 682.3km 乗った列車 15 本

✿ ひたすら列車に乗るだけの旅 2日目 20120816

05:00 沼津発

00:02 川西池田

青春 18 きっぷは 0 時を超えて初めて停車する駅まで有効なので、下車予定の川西池田直前で 0 時を回るこの列車に乗ることも酔狂の一つだった。

二日目 810.9km 乗った列車 11 本

二日間合計 1493.2km 26 本

✿ 家族ハイキング 20120708

富士登山をひかえ、トレッキングシューズの試し履きをかねて、家族でハイキング

✿ 宝永山登山 20120716

富士登山の前哨戦って位置づけで日帰り登山を敢行しました。

実際に山に登ってみて、高地に慣れることやペース配分、必要な装備などの確認をするためです。

✿ 富士登山① 行程

§

✿ 富士登山⑨ 気圧の変化